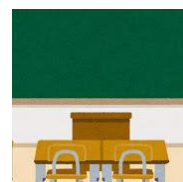


☆「教師が話すモデルとなること」「子どもをほめること」

今回の講師は、兵庫教育大学大学院教授 吉川芳則先生。「教師」の話にありがちな 3つの「〇〇い」の話から始まり、上手にほめて指導すること、しっかりと子どもの話を聴き、問うて出ることなど、受講者同士の小さな話し合いも取り入れながら研修は進みました。



☆講義・演習から学んだこと、気づいたこと 《授業づくりの基盤・確かな授業づくりについて》

吉川先生の話し方や目線の配り方を見させてもらいました。目が合う時に自然な笑顔を向けてもらえたので、聞いていて安心するのと、自分も参加しているんだと思いました。

自分の今までを振り返って話すぎていたなあと改めて感じました。少しでも子どもたちの活動する時間が増えるように明日から意識して、子どもたちの前に立ちたいと思います。

「主語・述語できちんと文で答えるようにできているか」と聞かれて、ドキリとしてしまいました。単語でもよとしてしまっていると思います。吉川先生の一言一言で、授業がなれ合いになってきてしまっているのだなと、気づきました。

板書の際に、黒板に貼る掲示物は少ない方がよいという話が特に印象的でした。振り返ると、研究授業の時だけ、きれいに綺麗に、短冊や挿絵を貼っていたなと反省させられました。掲示物に頼らずともシンプルに、大胆に、子どもの学びが生まれるような板書を目指したいと思います。

声の大小や抑揚、間のとり方、目線、表情など、教師は役者です。また、よいタイミングで褒める、変容を褒めるということ、この子を褒めようとあらかじめ考えておき教室に入るなども大切ですね。

“もう、5分子どもに返そう”を忘れず、しっかりと子どもの意見を聞き、整理し、さらに深い思考へと導く「教師の一言」を投げかけてください。



☆講義・演習から学んだこと、気づいたこと 《言語活動の量的・質的充実について》

「書かせること」をもう少し増やそうと決意しました。他の中学校で取り組まれている先生にコンタクトを取り、少し話をします。

授業中は、子どもに問うだけで「受けて聴く」いうことができていませんでした。「多様な観点」「対象を具体的に」「まとめ・総合する」を意識した問いをしたいです。

言語活動の〔量的な充実〕のあたりまでは何とか自分にも取り入れられそう…？ という思いで聞かせていただいていたのですが、〔質的な充実〕〔思考の具体〕のあたりでは、すでに遠い話のように感じ、焦りを感じていました。今の私にできることから始め、今日遠いと感じていたことが、イメージできるところまで、少しずつでも前に進めたらと思います

言語活動の具体の進め方・ヒントについては、さまざまな教育書が出版されていますので、これを機会に 1, 2冊読んでみるとよいですね。文部科学省出版物にも次のようなものがあります。

「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて【小学校版】」平成23年

「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて【中学校版】」平成23年

☆授業づくり自己成長・確認シート《24項目》を行いました

課題は人それぞれでしたが、5月時より伸びている点も多くあったことと思います。

課題克服ももちろんですが、得意手をさらに伸ばしていきましょう。

